

生活

(7) 生活

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えるような学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 家庭、地域の生活及び自然に直接働きかける等、家庭、地域及び身近な自然に関わる学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 幼児期の教育や他の教科及び中学年以降の学習との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等
3 その他	・今日的課題への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 生活科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「学びをふかめる」のコーナーを設け、具体的にイメージできるよう工夫されている。「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かしながら、児童が表現・交流活動を行い、気づきを関連付けて、より質の高いものとする姿・過程が例示されている。〔例〕下 (P14～15、P50～51)</p> <p>●着眼点(2)について 体験したことから必要な事柄を選び、順序を考えながら表現できるよう工夫されている。児童と教員が会話する際の言葉遣いを敬体に統一する等、言語能力の育成に配慮されている。〔例〕上 (P20～21)、下 (P15)</p> <p>●着眼点(3)について ICT 機器を活用し、児童の学びを可視化し、気づきの質の高まりを促す場面が掲載されている。アナログとデジタル、それぞれのよさを生かすことができるよう、学習内容や対象、児童の発達の段階に応じて、適切で具体的な活用例が示されている。〔例〕上 (P56～57)、下 (P84～85)</p>	<p>●着眼点(4)について 具体的な振り返り活動がイメージできるよう、新聞にまとめたり、手紙を送ったりするなど、多様な表現方法が示されている。また、学習内容や発達の段階に合わせた方法・内容を示すことで、2年間で徐々に活動の質が高まるよう工夫されている。〔例〕上 (P111)、下 (P17)</p> <p>●着眼点(5)について 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう、児童が身近な人々、社会及び自然と関わる姿が、写真やさし絵で多様に示されており、地域での活動や体験を行うことができるよう工夫されている。〔例〕上 (P22～23)、下 (P76～77)</p> <p>●着眼点(6)について 学習活動に即して活用する「ずかん」や、習慣や技能、学び方をまとめた「ほんとうのおおきさ いきものずかん」など、児童の興味・関心に即して活用できる資料が掲載されている。〔例〕上 (P50～51、P121～128)</p> <p>●着眼点(7)について 上巻巻頭に、生活科のスタートカリキュラムを具体化した小伴ページが掲載されており、幼児期の教育との接続に配慮されている。他教科で身につけた資質・能力を、生活科の学習で生かすためのヒントが掲載されており、他教科との合科・関連的な指導に役立つよう工夫されている。生活科の学習で身につく習慣や技能、学び方などが、巻末に掲載されており、中学年以降の学びの基盤として活用できるよう工夫されている。〔例〕上 (P1～13,)、下 (P29、P103～120)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
4 大日本	<p>●着眼点(1)について 児童の思いや願いをもとに児童主体の活動が始まるよう、単元の導入部分が工夫されている。伝え合う場面を適切に配置し、気づきが共有化され、次の活動への意欲が生まれるよう工夫されている。また、体験活動・表現活動が自ずと繰り返されることで、気づきの質が高まり、深い学びになるよう工夫されている。〔例〕上 (P38～41)、下 P30～31)</p> <p>●着眼点(2)について 「はなしかためいじん」「ききかためいじん」「話し合い名人」「はっぴょう名人」などで、話し合う方法や発表の仕方をわかりやすく示し、交流・発表活動において、児童の言語能力が育まれるよう工夫されている。話し合いの人数や形態を、ペア、グループ、クラスと高めていき、児童の言語能力が発達段階に沿って育成されるよう工夫されている。〔例〕上 (P31)、下 (P116～119)</p> <p>●着眼点(3)について 活動中に1人1台端末を使って記録を撮ったり、拡大して観察したり、振り返ったりする場面及び、発表時に電子黒板を使用する場面で、生活科の活動をより深めるために ICT 機器を活用する場面が例示されている。〔例〕上 (P24)、下 (P104)</p>	<p>●着眼点(4)について 端的な言葉で学習活動が示されていて、児童も教員も目的意識をもって活動に取り組むことができるよう工夫されている。書き込み欄に記入することで、自ら振り返り、次の活動につながるとともに、自分の成長を実感することができるよう工夫されている。〔例〕上 (P20～21)、上 (P122～127)</p> <p>●着眼点(5)について 児童の視点から写真やイラストを多く掲載することで、児童自らやってみたいと思う気持ちを引き出し、具体的な体験や活動が実現できるよう工夫されている。〔例〕上 (P28～29)、下 (P40～43)</p> <p>●着眼点(6)について 大単元の導入は2ページにわたる写真や絵を有効に使い、児童の興味・関心を高め、意欲的に活動に取り組むことができるよう配慮されている。〔例〕上 (P14～15、50～51)</p> <p>●着眼点(7)について 学校生活の楽しさを感じるとともに、不安を解消し安心できる環境がつけられるよう、上巻冒頭にスタートカリキュラムに配慮したページが設けられている。他教科との関連が深いところには、マークが示されていて、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題解決に向かう力が育成されるよう工夫されている。中学年以降の総合的な学習の過程が生活科らしい言葉で置き換えられ示されている。〔例〕上 (P2～7)、下 (P2～3)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
11 学図	<p>●着眼点(1)について 児童の対話のヒントとなるよう、個と個の対話からグループでの対話等に発展していく場面等、発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。〔例〕上 (P30～35)、下 (P90～95)</p> <p>●着眼点(2)について 各単元の活動では、身近な人々との関わりが盛り込まれており、言語活動を通して、児童のコミュニケーション能力が育成されるよう配慮されている。巻末の「学び方図かん」では、伝え合う手段として、「はなす」「きく」「はっぴょうする」を示し、伝え合い交流する活動を通して言語能力が育成されるよう工夫されている。〔例〕上 (P20～25)、下 (P113～125)、巻末</p> <p>●着眼点(3)について 上巻では、1人1台端末のカメラやビデオ機能を中心に扱い、写真をもとに記録用紙に書いたり、話し合いに使ったりして、身近な道具としての効果的な活用が示されている。下巻では、写真や動画を撮るときのマナーや情報検索の時の注意が示されている。〔例〕上 (P35)、下 (P125)</p>	<p>●着眼点(4)について これまでの記録をもとにまとめる場面では、学習したことをまとめるだけでなく、学習を通して成長した自分についてもまとめることで、自分の成長も見てとれるよう工夫されている。〔例〕下 (P72～73、106～107)</p> <p>●着眼点(5)について 単元を通して、児童の身近な人々、社会、自然と直接関わる場面が多く設定されている。各単元では長期的に継続した活動を設定しているため、人々や社会、自然等の対象と繰り返し関わり、気づきを深めていけるよう配慮されており、自分自身との関わりで考えていけるよう工夫されている。〔例〕上 (P26～27)、下 (P38～59)</p> <p>●着眼点(6)について 「もっと」のページでは、活動を通して自信を持った児童が、さらに意欲をもって取り組める活動などが示されている。〔例〕上 (P24～25)、下 (P14～15)</p> <p>●着眼点(7)について 小学校が安心できる場所であることがわかるイラストや写真が示されることで、入学したばかりの児童の不安が解消できるよう配慮されている。主に表現活動を中心に他教科との関連が図られている。他教科で学んだことを、カードの記録や遊びを良くしようとする際に実際に生かして使ってみるなど、学習効果の高まりが相互に作用するよう構成されている。中学年以降の社会や理科への素地を養えるよう構成されている。〔例〕上 (P1～11、P60～64、P89)、下 (P6～8)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 導入「わくわくスイッチ」のコーナーでは動機付けをし、「はっけんロード」「はてな」のコーナーでは自ら活動を組み立て、「ぐんぐんはしご」のコーナーでは自分の成長を振り返って自覚するメタ認知を育むことができるよう構成されており、主体的・対話的で深い学びへ導くよう工夫されている。〔例〕上(P94～105)、下(P76～89)</p> <p>●着眼点(2)について 体験から感じたことを言葉にし、語彙力を育むことができるよう、多様な言葉が掲載されている。気づいたことをもとに考えることができるよう、活動場面に多くの言葉が示されている。〔例〕上(P58～59)、下(P84～85)</p> <p>●着眼点(3)について 二次元コードを通じて、安全・安心なサイト「まなびリンク」の豊富なコンテンツに接続でき、個別最適で、協働的な学びにつながるよう工夫されている。ICT機器を使用した効果的な学習活動が豊富に掲載され、ICT活用の際の注意事項、ルールやマナーが掲載されている。〔例〕下P95、上下P128～129</p>	<p>●着眼点(4)について 見通しをもつ大切さや学びの過程を振り返る大切さがわかるよう工夫されている。各単元末では、振り返り活動を促し、自己評価を促す「ぐんぐんはしご」のコーナーが設けられている。〔例〕上(P61)、下(P76～89)</p> <p>●着眼点(5)について 身近な地域で生活したり働いたりしている人々と繰り返し関わる単元が設けられている。主体的に取り組めるように、探検計画例や地図を活用した記録例、グループでの意見交換の場面が示されている。〔例〕下(P24～25、P64～67)</p> <p>●着眼点(6)について 低学年に適した表記や表現、鮮明な写真で児童の興味や関心を引きつけるデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されており、児童の自主的・自発的な学習活動を促すよう工夫されている。〔例〕上(P45)、下(P49)</p> <p>●着眼点(7)について 生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、スタートカリキュラムの編成方法を具体的にイメージできるよう工夫されている。巻末「学びのポケット」で、生活科と各教科を結び付け、カリキュラムマネジメントが見えるよう構成されている。下巻には、上学年の学習を見に行ったり、インタビューしたりする活動が設けられ、生活科からのつながりがイメージしやすいよう工夫されている。〔例〕上(P4～9、P117～129)、下P104～107</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
26 信教	<p>●着眼点(1)について 児童の願いや求めから始まる活動を通して豊かな学びや育ちの姿が掲載されており、主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう工夫がなされている。地域にある様々な人・もの・こととの関わりや触れ合い、交流を通して、様々な学びを深めていけるよう工夫されている。〔例〕上 (P36～43)、下 (P14～27)</p> <p>●着眼点(2)について 活動や学びの中で生まれる友だち同士の気づきや発見を伝え合う姿がさし絵や写真、作文などで示されている。児童が日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、相手に思いを伝えることの意義を表すよう配慮されている。〔例〕上 (P114)、下 (P28～29)</p> <p>●着眼点(3)について デジタルカメラや電子黒板、1人1台端末等の活用について、写真やさし絵で示されている。教科書の内容と関連する動物や植物、活動例等の図鑑的資料を児童の興味・関心にあわせて閲覧できるよう、URLと二次元コードが巻頭に配置されている。〔例〕上 (P123)、下 (P3)</p>	<p>●着眼点(4)について 各単元での振り返りの場면을大事にし、児童が自分や友達的生活・地域との関わりなどを通して自分の成長に気づくことができるように配慮されている。自分の幼いころの成長を支えてくれた家族やまわりの人々との関わり、学校での2年間を通して、互いの成長を振り返る場面を大切に、自分の成長を実感できるよう工夫されている。〔例〕上 (P44～51、P74～79)、下 (P92～99)</p> <p>●着眼点(5)について 児童が、地域の公民館や図書館などの公共施設にも興味関心をもてるよう、関連する単元間のつながりが工夫されている。〔例〕下 (P16～17、P68～73)</p> <p>●着眼点(6)について 児童の対象に対する思いや気づき、意識の高まり具合を、吹き出しや写真、さし絵などで示されており、児童の自主的・自発的な学習活動を促すよう工夫されている。〔例〕上 (P68～71)、下 (P48～49)</p> <p>●着眼点(7)について 入学期の児童の発達の特徴を配慮し、遊びをはじめ、具体的な活動や体験を中核にしながら総合的に展開できるよう工夫されている。聞き取りやインタビューの仕方、地域調べの取組方などのように、他教科との関連や中学年以降の教科や総合的な学習の時間との関連がわかるよう工夫されている。〔例〕上 (P7～10、81)、下 (P52～57)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 学びを深めていくときの試行錯誤のポイントが、「学び方のヒント」として設定されている。つまづいたときや試行錯誤するときに大切になる考え方や活動、表現のバリエーションのヒントが示されており、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。〔例〕上(P46)、下(P20)</p> <p>●着眼点(2)について 学習活動の中に対話的な学習を取り入れ、多様な表現活動を通して自分の考えをまとめ、単元の最後には活動を自分の言葉を使ってまとめる場が設定されている。〔例〕上(P40～41)、下(P42～43)</p> <p>●着眼点(3)について 1人1台端末や電子黒板などを使って、記録する、情報を共有する、交流するなど、生活科での学びの深まりを実現できる活動場面において、ICT機器の活用例が写真で具体的に示されている。ICTを含めた様々な表現方法から、自分の目的にあうものを選び、活用する学習等が示されている。〔例〕上(P28)、下(P90～91)</p>	<p>●着眼点(4)について 見開き冒頭に活動内容が具体的に示されており、学習のはじめに掲載されている写真とあわせて参照することで、これからの学習内容がわかり、見通しをもった活動につながるよう工夫されている。活動の終わりには、児童自身が振り返り、表現する場を設定することで、学んだことを定着させ、次の学びへつながるよう工夫されている。〔例〕上(P66～67、84～85)</p> <p>●着眼点(5)について 学校内で役割を持つ方々、地域社会で活躍する方々など、児童を見守る多様な立場の方々との協働が例示されている。多様な交流のあり方を示しており、様々な学校現場の実情に合わせた活動ができるよう工夫されている。〔例〕上(P13)、下(P78～79)</p> <p>●着眼点(6)について 学習対象を写真で提示することで、イメージしやすくし、児童の意欲が喚起されるよう工夫されている。別冊「ひろがる せいかつじてん」には、単元に関わる資料が収録されており、児童の興味・関心に応じた活用ができるよう工夫されている。〔例〕上(P74)、別冊</p> <p>●着眼点(7)について 上巻冒頭にスタートカリキュラムページを設け、児童が学校生活への不安をなくし、自信をもってスタートできるよう配慮されている。他教科等との関連が図れるよう、合科・関連の例が示されている。中学年以降の学習に期待感をもってイメージし、生活科の学習との関連を捉えることができるよう工夫されている。〔例〕上(P6～19)、下(P97)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
61 啓林館	<p>●着眼点(1)について 単元導入「わくわく」、主な活動「いきいき」、振り返り「ぐんぐん」の3段階で構成し、単元を通して活動が発展するよう工夫されている。紙面右下の「めくりことば」で次の活動への思いや願いを示すことで、児童の活動の連続性・広がりをサポートし、学習を関連づけながら深い学びが実現できるよう工夫されている。〔例〕上 (P4～13)、下 (P90～97)</p> <p>●着眼点(2)について 発達段階や他教科等との関連、中学年以降への接続に配慮し、新聞、ポスターの作成、劇や発表会の実施といった言語活動を段階的に設定することで、思考を深め、言語能力の育成に向けて工夫されている。〔例〕下 (P54～55、94～95)</p> <p>●着眼点(3)について 生活科の活動をより深める・広げるための1つの道具として ICT が有効な場面では、1人1台端末を利用した活動(記録する、整理する、振り返る、発表するなど)が、低学年の発達段階に配慮しながら示されている。〔例〕上 (P26)、下 (P86)</p>	<p>●着眼点(4)について 児童が学びの見通しを持ちやすいよう、小単元名や各種コーナーなどの掲載位置が原則同じになるよう紙面構成されている。学習を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感することで、満足感・成就感などを感じ、次の活動への意欲が育まれるよう工夫されている。〔例〕上 (P32～33)、下 (P24～25)</p> <p>●着眼点(5)について 児童の身近な生活の場が学習の対象や場として設定されており、児童が体全体で身近な環境に直接働きかけるような学習活動が行えるよう配慮されている。〔例〕上 (P48～49)、下 (P58～59)</p> <p>●着眼点(6)について 活動が途切れることなく連続して進んでいく展開は、深い学びを実現するだけでなく、次の活動への意欲を高め、児童の主体的な学習や活動を促すよう工夫されている。〔例〕上 (P24～31)、下 (P34～37)</p> <p>●着眼点(7)について 上巻の巻頭にスタートカリキュラムに関する単元を設定し、児童が主体的に自己を発揮しながら、安心して学校生活を始められるよう配慮されている。他教科マークが表示され、合科的・関連的な指導のカリキュラムを編成しやすく、それぞれの教科の資質・能力を高めることができるよう工夫されている。中学年以降の理科や社会科などの見方・考え方につながるよう、学習活動が具体的に示されている。〔例〕上 (小寸、P31)、下 (P39)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称		総ページ	(1) 内容別配当の分量										(2) 教材・資料等の分量						
			学校と生活	家庭と生活	地域と生活	公共物や公共施設の利用	季節の変化と生活	自然や物を使った遊び	動植物の飼育・栽培	生活や出来事の伝え合い	自分の成長	その他	資料	吹き出しの数	子どもの学習カード例示数	習慣や技能の習得のページ	発展が含まれるページ	二次元コード	三重県に関する記述
			2 東書	上	132	18	6	8	6	16	16	20	14	6	22	34	236	32	31
	下	124	0	0	22	10	12	12	20	20	4	24	27	291	50	29	10	30	—
4 大日本	上	141	26	2	4	8	16	18	26	14	6	21	16	517	18	25	2	48	—
	下	129	4	2	24	2	10	12	20	26	14	15	20	404	30	8	2	36	—
11 学図	上	140	10	7	0	0	22	26	32	7	7	29	34	286	32	18	10	27	—
	下	132	0	0	18	2	12	16	40	10	13	21	38	172	40	23	8	24	—
17 教出	上	132	16	7	0	1	23	13	22	23	9	18	29	136	33	6	2	34	—
	下	132	1	0	17	3	8	14	24	29	11	25	32	152	46	5	3	31	—
26 信教	上	132	14	5	5	0	57	13	22	3	6	7	22	113	24	3	3	1	—
	下	108	1	0	11	9	22	12	28	5	13	7	11	81	13	3	2	1	—
38 光村	上	124	14	6	2	1	17	12	21	16	11	24	16	222	33	24	16	17	○
	下	104	2	0	18	7	8	9	15	25	8	12	14	190	56	23	10	9	—
61 啓林館	上	150	19	10	3	2	37	11	24	19	5	20	55	246	44	36	18	33	—
	下	140	7	0	16	4	8	12	26	26	8	33	51	273	49	31	18	15	—

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・A4版で、強度と軽さ、写真やさし絵がわかりやすく表現できるような用紙が使用されている。変型判ページでは、植物の成長順序を捉えることができるよう工夫されている。 ・紙面は落ち着いた淡い色調で統一されている。児童向けのすべての文書は、文節で分かち書きされており読みやすさに配慮されている。 ・各小單元における主な評価規準を明確に示すことで、児童の学習意欲が高められるよう工夫されている。体験と表現の往還により「気付きの質」が高められるよう、振り返りと表現活動の充実が図られている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・白色度が高く、視認性に配慮した、軽量でありながらも強度の高いA4版の上質紙が採用されている。表紙は丈夫で、抗触媒を利用した抗菌・抗ウイルス処理がされている。 ・専門家の監修のもと、ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインをふまえた配色となるよう工夫されている。文章の分かち書きや、読みやすい位置での文節改行がされている。 ・交通安全や熱中症など、自分の身を守るための習慣や技能を身につけることができるよう工夫されている。
11 学図	<ul style="list-style-type: none"> ・A4変型判で、強度の高い用紙が採用されている。教科書に直接書き込むページでは利き腕を問わず快適に書けるよう配慮されている。 ・公的機関の専門家指導のもと、カラーユニバーサルデザインの考え方に則った色使いが工夫されている。本文では、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・活動に対して自分の願いを明確にすることで、主体的な行動を通して自己決定する場が設定されている。頁見開きを1つの活動単位とし、願いを持ち、主体的・対話的に活動し、伝え合い、振り返ることができるよう工夫されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・A4版で、環境に配慮した裏映りのしない軽い紙が使用されており、重さに配慮した教科書となっている。表紙には、抗菌加工と汚れ等に強いコーティングが施されている。 ・イラストや写真の中に、多様な児童が描かれており、互いを尊重して学び合う大切さが育成されるよう工夫されている。全体にユニバーサルデザインが施されている。 ・児童が学習しやすいよう絵本のキャラクターが採用されている。
26 信教	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版（ワイド版）で、再生紙が使用されている。下巻「はしれはしれ」では、観音開きのページが採用されるよう工夫されている。 ・必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ・生活科創設当初から、長年にわたる長野県の学校の実践が編集されている。地域性を考慮した教材と直接体験を重視した単元構成となっている。
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・A4サイズで、環境にやさしい用紙が使用されている。教科書から取り外し持ち運べる上巻資料「きせつの なかまたち」は防汚加工が施されている。 ・写真と写真の間を空けたり線で囲んだりして、明確に区別できるようユニバーサルデザインの観点から配慮されている。色覚特性に配慮し、色による識別に頼ることなく、形で識別できるよう工夫されている。 ・本編で学習活動を理解し、個人の興味・関心に応じ、資料編を参照にしてさらに詳しく調べる等、個別最適な学習に向けて工夫されている。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版（ワイド版）が採用されている。上巻巻頭の「すたあとぶっく」は、小寸サイズの角が丸く加工されており、親しみやすい印象になるよう工夫されている。 ・児童が学習しやすいよう配色、デザインが工夫されている。自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを考えたりするためのソーシャルスキルトレーニングに関連する資料が掲載されている。 ・「学びのキーワード」として、「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの気づきから考えるための多様な学習活動が例示されている。

3 その他

発行者の 番号・略称	今日的課題への配慮
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やさし絵で登場する児童や地域の人、家の人の教や役割などに、性別による偏り等がないよう配慮されている。多様な他者との協働に関する教育（インクルーシブ教育）に配慮されている。 ・繰り返し大切に使う、節電・節水、3Rなど、持続可能な社会の担い手を育むための資料が掲載されている。
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々に関わる活動場面を随所に取り入れ、発達段階に応じた人権意識を育めるよう配慮されている。 ・関連する部分をSDGsマークで示し、児童が関心をもてるように工夫されている。生活科で活動する内容がSDGsの目標と関連していることを解説したページを設け、理解を深められるよう工夫されている。
11 学図	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、多様な人々との関わりを大切に扱っている。人物の写真・イラストは、男女の比率に偏りがないよう配慮されている。 ・「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現のため、生活科の学習の中でもSDGsを意識できるように配慮されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童が、自分らしさを発揮して学ぶことができるよう、協働的に学ぶ姿が写真やイラストで掲載されている。 ・現代社会における環境や多様性などの教育課題について、児童一人一人が自ら課題を発見し、行動を促す取り組みが掲載されている。関連ページには、SDGsアイコンがあり持続可能な社会への意識を高める工夫がされている。
26 信教	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々と触れ合うことをさし絵や写真で表し、学習が個々の児童の願いや実態に応じて選択、発展するよう配慮されている。 ・船の材料集めや製作・後片付けの過程で、学校、地域、級友との心の交流を通して人との適切な関わり方、身の回りの環境を大切にできる態度が身につくよう配慮されている。
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書全般にわたり、特定の偏りがないようにするとともに、多様な人々に関わる活動が取り上げられている。 ・SDGsに代表される現代的な諸問題について、外来生物との関わり方や3R、資源を大切にすることなど、低学年でも考えたり取り組んだりできる内容が取り上げられている。
61 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々に関わるようすが写真やイラストで示されており、誰もが住みやすい社会をめざそうとする意識が芽生えるよう工夫されている。 ・環境問題や食糧問題など、地球の問題を自分事として捉えるきっかけとして、自分自身の生活の工夫、自分と自然との関わり方、身近な社会の工夫について考えることができるようSDGsに関する資料が掲載されている。